

こう てん せい けっ せん せい けっ しょう ばん げん しょう せい し はん びょう
後天性血栓性血小板減少性紫斑病の治療のために

カブリビによる 治療を始める患者さんへ

…安全に使用するための注意点…



他の医療機関や診療科にかかる時は、カブリビを投与していることをかならず伝えてください。



血液を固まりにくくするお薬などを投与中の患者さんは特に注意が必要です。出血の症状が現れた場合には、速やかに担当の医師、薬剤師または看護師に連絡してください。

カブリビを投与をしている間に、内服や注射をすることで出血の危険性が高まる薬剤があります。



手術や歯の手術(抜歯など)、内視鏡検査などを受ける予定がある時は、事前に担当の医師、薬剤師または看護師に相談してください。

これらの手術や検査の前にはカブリビの投与を中止する必要があります。また、投与を再開する時にも注意が必要ですので、担当の医師の指示に従ってください。



カブリビの患者さんカード「カブリビによる治療を受けている方へ」をご利用ください。

カブリビの投与期間中と、カブリビを最後に投与した日から1週間は、このカードをいつでも医師(歯科医師を含む)、薬剤師または看護師に見せられるようお財布などに入れて携帯してください。



外側▶

■カブリビを最初に投与した日 年 月 日	■カブリビを最後に投与した日 年 月 日	■カブリビの処方を受けている病院 病院名 () 電話番号 () 担当医師
------------------------------------	------------------------------------	--

※患者さんご自身が記入する場合は、担当の医師にご確認ください。

内側▶

患者さんのお名前 緊急時の連絡先 お名前 () 電話番号 ()	医療従事者の方へ この患者様は、カブリビ(カブラズマブ)が処方されており、出血の危険性が増加しています。 ●カブリビは、後天性血栓性血小板減少性紫斑病の治療薬で、血漿交換や免疫抑制薬と併用して使用します。von Willebrand因子(VWF)と血小板との相互作用を阻害することで、血小板凝集による血栓の生成を抑制します。 ●カブリビは、出血(生命に関わる可能性のある出血を含む)の危険性を高める可能性があります。 ●血液凝固障害等の出血に関連する基礎疾患のある患者は注意する必要があります。 ●主に抗血小板薬または抗凝固薬を併用している患者において、生命に関わる致死的な出血の発現が報告されています。	RMP カブリビによる治療を受けている方へ このカードには、治療に関する重要な情報が記載されています。カブリビの投与期間中と、カブリビを最後に投与した日から1週間は、このカードをいつでも医師(歯科医師を含む)、薬剤師または看護師に見せられるよう携帯してください。 サノフィ株式会社
---	--	--

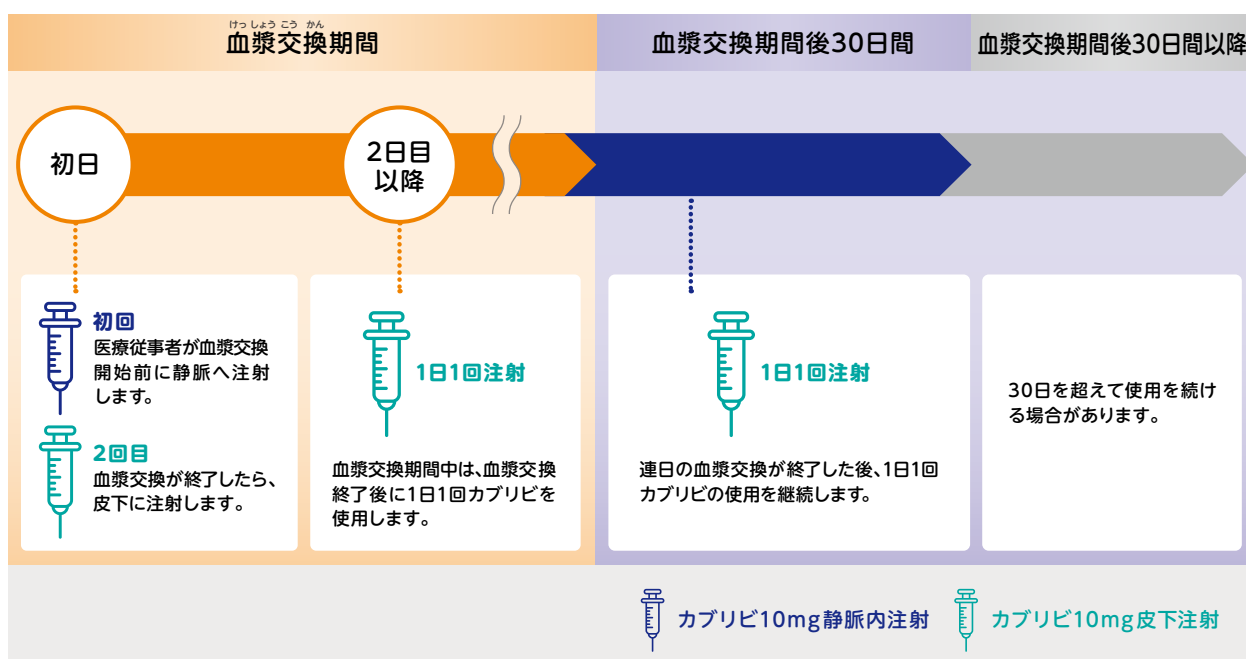
※詳細は電子化された添付文書(電子添文)をご参照ください。



カブリビは、
1日1回注射するお薬です。

こう てん せい けっ せん せい けっ しょう ばん げん しょう せい し はん びょう
カブリビは後天性血栓性血小板減少性紫斑病を治療する注射のお薬です。
初日は静脈内注射と皮下注射、2日目以降は1日1回の皮下注射を行います。

カブリビの投与スケジュール



予定時刻に投与を忘れてしまった時は

予定時刻から12時間以内に気づいた時は、その時点でカブリビを投与してください。
予定時刻より12時間を超えた場合は、その日の分は投与せず、次の日の予定時刻に1回分を投与してください。

分からないことや気になることがあれば、担当の医師、薬剤師または看護師にご相談ください。



カブリビの投与方法について

カブリビの詳しい投与方法は、「カブリビを使用する患者さんへ」冊子または投与患者Webサイトにて動画でもご紹介しています。ぜひご利用ください。



カブリビを投与することで、
出血しやすくなり、重大な出血が
おこるおそれがあります。

以下のような症状があらわれた場合は、すぐに担当の医師、薬剤師または看護師に連絡し、指示にしたがってください。



異常な出血や内出血(あざ)



普段みられない以下の症状

- ☐ 頭痛
- ☐ 息切れ
- ☐ 疲労感
- ☐ めまい



医療機関名

■ カブリビを最初に投与した日

年	月	日
---	---	---

■ カブリビを最後に投与した日

年	月	日
---	---	---

※患者さんご自身が記入する場合は、担当の医師にご確認ください。

！ ご注意いただきたいこと

カブリビは、出血（生命に関わる可能性のある出血を含む）の危険性を高める可能性があります。
次のような症状があらわれたときは、すぐに担当の医師・薬剤師または看護師に連絡してください。

- 異常な出血や内出血（あざ）
- 普段みられない以下の症状
例：頭痛、息切れ、疲労感、めまい、ふらつきや失神

- 病院で後天性血栓性血小板減少性紫斑病以外の治療や検査、手術等を受ける際にも、医師（歯科医師を含む）、薬剤師または看護師にこのカードを見せてください。

- また、このカードとあわせて、「カブリビを使用する患者さんへ」冊子をよくお読みください。

サノファイ株式会社

RMP

カブリビによる治療を受けている方へ

このカードには、治療に関する重要な情報が記載されています。
カブリビの投与期間中と、カブリビを最後に投与した日から1週間は、このカードをいつでも医師（歯科医師を含む）、薬剤師または看護師に見せられるよう携帯してください。

カブリビの投与期間中と、カブリビを最後に投与した日から1週間は、このカードをいつでも医師（歯科医師を含む）、薬剤師または看護師に見せられるよう携帯してください。

患者さんのお名前

医療従事者の方へ

■緊急時の連絡先

お名前

電話番号

()

■カブリビの処方を受けている病院

病院名

電話番号

担当医師

()

この患者様は、カブリビ(カプラシズマブ)が処方されており、出血の危険性が増加しています。

- カブリビは、後天性血栓性血小板減少性紫斑病の治療薬で、血漿交換や免疫抑制薬と併用して使用します。von Willebrand因子(VWF)と血小板との相互作用を阻害することで、血小板凝集による血栓の生成を抑制します。
- カブリビは、出血(生命に関わる可能性のある出血を含む)の危険性を高める可能性があります。
- 血液凝固障害等の出血に関連する基礎疾患のある患者は注意する必要があります。
- 主に抗血小板薬または抗凝固薬を併用している患者において、生命に関わる致死的な出血の発現が報告されています。

- 出血に対して注意深く観察を行ってください。
- 重大な出血が発現した場合、カブリビの投与を中断してください。また、止血作用を正常に戻すために適切な処置を行ってください。
- 待機的手術、侵襲的な歯科処置または他の侵襲的処置の7日前にはカブリビの投与を中止してください。

※詳細は電子化された添付文書(電子添文)をご参照ください。



2022年9月作成

専用アプリ「添文ナビ[®]」で読み取ることによりPMDAホームページに掲載された添付文書、電子化された本資料をご覧いただけます。